科目区分：学部　　授業科目名：数学科教育法Ⅳ
担当教員：藤本 義明

数学科教育法Ⅳの授業評価

所属講座：数学教育　氏名：藤本義明

１．授業の概要

５人ずつの３班に分け、前半は指定したテーマについて、後半は学生が考えたテーマについて、研究と発表を行った。また、２回ほど附属中学校教諭の講話を２回、教具の製作実習を１回行なった。

２．評価方法

評価の方法としては､授業の経過に合わせ、以下の質問項目に文章形式で回答させた。

１．グループの人数は適切だったか
２．グループでの役割分担はうまく行ったか
３．前半で、テーマが与えられていたことをどう思うか
４．後半で、自分達でテーマを決めたことをどう思うか
５．各テーマの発表回数は適切だったか
６．発表についてどう思うか
７．グループでの調査・発表全体についての意見・感想
８．個人での教具づくりについての意見・感想

３．結果

１：全員がグループの人数は適切であったと答えた。グループで話し合いながら研究できたようである。
２：役割分担はうまく行えたようだが、グループによっては、個人研究の色合いが濃くなったようである。
３：前半にテーマが与えられたことで、戸惑いが少なく研究がされたようである。テーマ内容についても､不満はなかったようである。
４．前半の活動で要領が分かったので、自分達でテーマを考えることも、やりやすかったようである。
５．発表回数は４・５回だったが、おおむね適切であったようである。大きなテーマでは回数が足りないという意見もあった。
６．１班１５分の発表時間は適切であり、他の班の取り組みを聞いて視野を広げることができたようである。学生からの質問は前半は多くあったが、後半少なくなったのが問題であると指摘していた。
７．時間を合わせて、協力して研究するという面では不十分な所があったようである。全体に視野が広がり、自分達で調べることの意義は捉えているようである。
８．集中して、教育実習の経験を生かしながら教具づくりをしたようである。出来上がった教具を鑑賞し合う場がなかったので、物足りなさが残ったようである。

４．分析とまとめ

研究・発表のテーマを前半はこちらから与えているので、自由がきかないという反応があるのではないかと懸念したが、学生は最初はテーマが与えられる方が戸惑いが無くて良いというプラス評価をしていた。

発表において、前半は学生からの積極的な質疑応答があったが、後半は質問も少なかった。学生が考えるテーマは必ずしも疑問が起きやすいテーマでは無いので致し方ない部分もあるが、今後、何らかの改善をする必要がある。